

## 文化・芸術



### 「八ヶ岳残雪」

1961、62（昭和36、37）年ごろ、  
水彩、パステル・紙24.5cm×33.5cm

曾宮一念（1893～1994年）

東京に生まれ、少年のころに描かれていま  
期から武蔵野をよく歩

き写生した曾宮一念。

かつて富士山につい

話題とする風景をよく

知り歩き愛情を持つこ

と必要性を自身の随

筆でも述べています。

その一方、身近にない

ものを遠くに求めて得

られる刺激は、古い皮

を剥ぐ一手段になると

いい、戦後は日本各地

を頻繁に旅しスケッチ

を重ねました。

戦中から富士の麓に

暮らした曾宮は、19

60（昭和35）年、長

野原の富士見町に山荘

を建てました。八ヶ岳

が生まれています。

山麓を眺めた本作はこ

（小此木）

### 《名画の扉》

大川美術館企画展 生誕130年記念  
「曾宮一念展—空にけやきをゆるす風」から